

1/27(土)まじい! 倫理号です。 荒いお天、路面が凍結レトロに運転です。

今週の倫理 1066号 今週の倫理は正に真髓でしょう。 2018.1.27 ~ 2.2

「ハイ」は「ハイ」で? と思われる事から
純情な心になる。感謝!
(すなお)

一月のテーマ

欄

すなおな心の 陰と陽

幸せ運ぶ
アヒ



え・城谷俊也

倫 理法人会は、倫理経営の土
台である純粋倫理の学習と

実践を通じて、経営者の自己革新
をはかることを目的としています。
自己革新をはかるとは、言い換え
れば、「すなおな心を目指す」こと
だと言えるでしょう。

その、すなおな心には、陰と陽
の二面があります。

陰の面とは「受容」です。すべ
てをそのまま受け入れる心になる
ことです。例えるなら、水がどの
ような形の容器でも、そのままに
受け入れ、自らの姿を変えるよう
な柔軟な心の様子です。

受ける行為の典型といえるのが
「ハイ」という返事です。倫理運
動を創始した丸山敏雄は、「ハイ」
の返事について、次のように述べ
ました。

この「ハイ」は簡単なようであるが、
ただ人の言葉を聞いて、「ハイ」と
返事するのではない。すべてを受け
容れる絶対境の表現である。寒暑風
雨、順逆治乱、そしりも怒りも、そ
の悉(ことごとく)を受けて排斥(は
いせき)せぬ。〔純粋倫理原論〕

経営者モーニングセミナー(M
S)では、基本テキストである『万
人幸福の栞』を輪読しています。

輪読とは、数人が一冊の本を順番
に読むことであり、MSで輪読す
る際には、「ハイ」と返事をしてか
ら、該当する箇所を読み進めます。
また、リーダーから読み間違えを
指摘された場合も、「ハイ」と返事
をし、その指摘を受けてから読み
直します。双方ともに、受容する
ことを「ハイ」の返事で表現して
いるのです。

MSに限らず、日常生活で返事
をする機会は多くあります。家庭
において、家族から名前を呼ばれ
る。会社において、上司や部下、
同僚から名前を呼ばれる。例え相
手が誰であっても、すべてを受け
入れる、歯切れのよい「ハイ」の
返事を目指したいものです。

続いて、すなおの陽の面は、「発
動」です。受容を水とするならば、
火のように、積極的に働きかける
ことに例えられます。

一度始めたことは、最後までや
り遂げる。グズグズしたり、気を

緩めたりせず、大胆に、一気呵成
に行なう。気づいたらすぐする「即
行」の実践とは、まさにこの能動
的な陽の面を、日常生活の起居動
作に及ぼしたものでしょう。

私たちの日常は、様々な気づき
で溢れています。その気づきをあ
やふやにせず、先延ばしにせず、
迅速に処理すること。それはまさ
に、すなおな心境に至るための要
諦に他なりません。

また、「即行」の実践により、(実
行力・判断力) 解決力が養われま
す。この三つの力は、事業商売に
は欠かせない能力でしょう。

最高のチャンスであるその一瞬
を逃さず、的確に捉えて行動に移
すことが「即行」の実践であり、
すなおな心の陽の面、積極的に働
きかける発動となるのです。

丸山敏雄は「すなお」という言
葉に「純情」の文字をあてました。
純情は、受容と発動、すなわち陰
と陽の二面を持ち合わせているの
です。純情(すなお)な心境を目
指して、日々、自己革新をはかっ
てまいります。

二月の一句です
名を呼ばし
ハイの返事に
襟ひだす